

第1号



こうみょうだより

発行：社会福祉法人多摩養育園
編集：光明保育園 園長会

題字：園児
令和元年 11月15日発行



もくじ

- 学びの芽生え 「異年齢の中での育ち」
- 食育 「セミバイキングってなあに？」
- 和のこころ 「どうして餅つきをするのかな」
- 地域の大きな家 「地域にささえられて」



少子化・核家族化・A1化、子どもを取り巻く社会は刻々と変化。異年齢の人と関わる事が出来ず、社会に出るとつまづいてしまう若者…昔は、地域や家庭に自然的にあった「子ども集団」が、今はほとんど消えつつあります。

光明保育園の異年齢児保育。一人一人違う性格、違う年齢、そんなさまざまな子どもが集まる「子ども集団」が、どのように発達に影響しているのでしょうか。目には見えない「心の育ち」にフォーカスをあててみます。

新しい気持ち

ある日の公園で、年中・年少児が集まって、楽しそうな会話が聞こえてきました。「ころころしたのがいっぱい!」「種じゃない?」「そうさんのうちかな〜?」「え〜うち〜!!」と、とっても楽しそう。どんどん話が盛り上がる一方、側に居た年長児は上の木を見上げ「……」。そして、職員が側を通ると、小さな声で「せんせい……木の実って教えていいの?」なんとも思いやりのある可愛い質問でした。



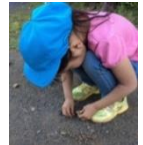
年少・年中で集まって、何やら会話が盛り上がっています。



その様子を見た年長さん。状況から上を見上げ…

保育者のまなざし

異年齢で過ごす中で、身支度を手伝う、遊びを真似る、憧れを持つ、自信につながるという姿は日々育っていると感じます。その中で今回は気持ちの成長を感じました。自分たちは(年長)知識をもち、視野を広げ、状況からしっかりと答えを導きだしました。しかし、目の前で予想し、考え楽しんでいる年下の子たちを見守り、すぐに答えを伝えていいのかと迷い思いやる気持ちに感じました。



石で木の実を割ってみる子も。

育ち合う力

夕方の園庭。最初はみんなそれぞれボール遊びをしていましたが、年長児がサッカーを始めました。すると、その勢いに押され、他の遊びに移っていく子どもたち。そんな中、一人だけサッカーの様子をずっと近くで見ている年少児。その姿に気づき「一緒にやる?」と、年長児。仲間に入れてもらい、一緒にサッカーをすることができました。



盛り上がるサッカー(白い帽子)



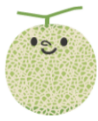
その様子を見つめる年少さん(青い帽子)



ちょっぴり緊張しながら仲間入り

保育者のまなざし

相手の思いに気づき、受けとめ、受け入れる。また、受け入れてもらえる。そんな経験が「他者を思いやる気持ち」につながっていきます。年上の子の様子を見て、「やってみたい」と思う意欲や、集団の中にどうやって入っていったらいいのか考える環境が日常的にある保育園。子ども同士が関わり合うことで、自然と自分の発達の段階に見合った行動をとっている。子どもが「自ら育つ力」をしっかりと持っていることに改めて感心しました。



心と身体をつくる楽しい食育



光明保育園 12 園の栄養士が腕を振るう、季節感のある栄養バランスがとれた献立。給食のいい匂いがしてくる頃、たくさん遊んでお腹を空かせた子どもたちが続々と集まってきます。給食のスタイルはセミバイキング方式。子どもたちは毎日どのように食事しているのでしょうか。

セミバイキングってなあに？

トレーを持って配膳の場所へ並び子ども達。自分の番が来たら「ごはん大盛り下さい！」「この野菜はもう少し減らして」・・・と、自分で食べたい量、食べられる量をお当番さんに伝えます。「このくらい？」「もっとたくさん」「うん、そう！」このことが、どの子にも必ず一日に一度は『自分の思いを相手に伝える』という機会になり、とても大切なコミュニケーションの力となっています。



好きな物ばかり食べる？好き嫌いがなくなるのでは？

苦手な食べ物は「ちょっとだけ」とほんの少しという事もありますが、そこは子ども自身の主張した量を尊重。ほんの少しでも、苦手なものを「全部食べられた！」という満足感、達成感を感じることを大切に取組んでいます。



同じ「少し」でも、盛られたものが残ってしまえば「残した、食べられなかった」という気持ちになってしまいます。口に入った量がたとえ同じでも、先生が決めた量ではなく、自分で決めた量『選んでいる』主体的な食事により、偏食も少しずつ克服されていくと考えています。

食の環境作り

自分たちでテーブルを拭いたり、お花を飾ったり。心地よい音楽が流れる中、みんなでテーブルを囲み会話も弾みます。準備や片付けも楽しく。



次号は 保健室からこんにちは！

子どもの就寝時間の後退と睡眠時間の減少が問題視される中、午睡が必要か議論されています。日本家政学会誌の報告によると3歳約4割・4歳約7割・5歳約8割が午睡をしなくなっていることや就寝時間の後退は午睡による影響もあると示されています。保育指針による「適度な休息」の在り方について、光明保育園でも個々に合わせて工夫していきます。

和のこころ

どうして餅つきをするのかな？



餅つきと言えばお正月のイメージが強いですが、桃の節句には菱餅、端午の節句には柏餅などがあるように、昔からの日本のお祝い事にはもちが欠かせなかったようです。その中でもお正月の餅つきは特別。年末からお正月にかけての餅つきには鏡餅を準備する、お雑煮に入れる餅を作るの2つの意味があります。鏡餅は、新年の神様である歳神様（としがみさま）をお迎えして、「今年一年が幸せでありますように」とお祈りするため。保育園でもみんなでついた餅で鏡餅を作りお正月を迎える準備をします。

家では餅つきは出来ないで、毎年保育園で経験でき嬉しいです。今年は餅つきの由来やお正月の準備を子どもと一緒にしようと思います。

(5歳児・母)



地域の大きな家

さつまいもの苗と共に繋がれ地域の輪 5月にさつまいもの苗を一人1本ずつ植えました。散歩を通して、生長を見守り10月に地域の方と一緒に芋ほりを行いました。掘れたさつまいもを抱え「大きい！たくさん採れた！」と大歓声。その場にいた誰もが子ども達の喜びの表情に笑みが溢れるほどの大収穫になりました。

11月末には地域の皆様をお招きして、いも煮会を行い、自然の恵みに感謝しながら楽しいひとときを過ごします。



地域とのつながりから食育へ 「みんなで食べて」と畑でとれた大きなじゃがいもを持ってきてくれたボランティアさん。さっそく触ってみる子どもたち。泥や皮の感触を手のひらでたくさん感じて、ゴシゴシ洗って。「おじちゃん作ったの？」「おいも美味しい」と子ども達。とりたてのジャガイモに触れ、作った人の顔が見れる、地域の方に支えられて、また一つ子どもたちの育ちにつながる経験が出来ました。



自分たちで洗って給食に！おじさんも一緒にみんなで美味しく頂きました！